症例報告

大網に生着していた異所性卵巣成熟奇形腫の1例

Parasitic ovarian mature teratoma on greater omentum: a case report

東海太郎1)，東海次郎1)，東海三郎1)，

東海花子2)

Taro TOKAI, Jiro TOKAI, Saburo TOKAI, Hanako TOKAI

名古屋大学産婦人科1)、同　病理診断科2)

1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nagoya University School of Medicine

2) Department of Pathology, Nagoya University School of Medicine

連絡先

東海太郎

名古屋大学

〒466-8550

愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL: 052-744-2261　FAX: 052-744-2268

E-mail: tok-obgy@med.nagoya-u.ac.jp

【概要】

我々はまれな疾患である異所性卵巣成熟奇形腫を経験したので報告する。患者は39才、3経妊3経産、既往歴、手術歴はなかった。腹痛を主訴に近医内科診療所受診し、CTにて両側の卵巣腫瘍を指摘された。腹痛は著明でなかったため、、、

key words: teratoma, dermoid cyst, omentum, torsion, laparoscopy

【諸言】

卵巣成熟奇形腫は卵巣腫瘍のなかでは頻度の高い疾患である。まれに、卵巣成熟奇形腫は大網などの異所性に発見されることがある1)。我々は今回、、、

【症例】

患者は39才、3経妊3経産、既往歴、手術歴はなかった。腹痛を主訴に近医内科診療所を受診したところ、CTにて石灰化を伴う両側卵巣腫瘍指摘され、卵巣腫瘍茎捻転が疑われたが、疼痛は著明ではなかったため、発症5日後に当院紹介受診となった。

MRIでは径7cm×7cm×4cm大の、T1強調像高信号、T2強調像高信号な領域で構成され内部が脂肪組織で占められていると思われる多房性腫瘤を膀胱子宮窩左側に、同様な4cm×4cm×3cm大の腫瘤をダグラス窩右側に認めた（図１）。両側ともに卵巣腫瘍茎捻転によるうっ血を疑うような卵巣提索内の血管の拡張は認めなかった。ダグラス窩に腹水を少量認めた。腫瘍マーカーはSCC 0.7ng/ml、CA125 16.0 U/ml、CA72-4 1.2U/mlと正常範囲であった（表１）。

【考察】

異所性卵巣成熟奇形腫(parasitic ovarian mature teratoma)はまれではあるが古くから報告があり、発生率は0.4%とされる1)。症状は腹痛、腹部腫瘤感が多い2)3)。これまで報告されている大きさは長径15cmから5cm4)-6)など様々である。発症年齢も様々であり、当院では以前9歳の症例も経験した1)7)-9)。

【利益相反について】

この論文に関連して開示すべき利益相反状態にはありません。

【文献】

1. Hammond CB, Weed JC Jr, Currie JL. The role of operation in the current therapy of gestational trophoblastic diseaase. Am J Obstet Gynecol 1980; 136: 844-858
2. 新井太郎，加藤和夫，高橋　誠．子宮頸癌の手術．塚本　治，山下清臣　編　現代産婦人科学Ⅱ 東京：神田書店，1976; 162-168
3. Takatsuki K, Uchiyama T, Sagawa K, et al. Adult T-cell leukemia in Japan. Topics in Hematology. Amsterdam: Excerpta Medica, 1977; 73-77
4. 岡本三郎，谷村二郎．月経異常の臨床的研究．日産婦誌　1976; 28: 86-90
5. 愛知一郎、岐阜一郎、三重一郎ほか. 大網成熟奇形腫茎捻転の1例. 東海産婦誌 2010; 49 : 329-332

図の説明

図1 手術前の骨盤単純MRI画像(T2強調画像)：

脂肪で占められていると思われる多房性腫瘤を膀胱子宮窩(黒矢頭)とダグラス窩(白矢頭)に認めた。

図2 膀胱子宮窩腫瘤と腹壁：

膀胱子宮窩腫瘤は腹壁と疎な癒着(白矢頭)を形成していた。鉗子で触る程度で癒着は剥離できた。